

# 国境を越える中古品

埼玉学園大学 平田 礼王  
経済経営学部 専任講師

## 経済経営子部 専任講師



ひらた・れお 1996年生まれ。埼玉学園大学専任講師、京都大学東南アジア地域研究研究所連携講師。京都大学大学院総合生存学館修了。博士（総合學術）。2025年4月より現職。専門は東南アジアにおける企業の環境行動。「アジア経済論」「アジア経営論」などの科目を担当。

日本で役目を終えた電子機器、特にテレビやパソコンなど、家の電気の一部は、中古品として海外で再使用され、その先で廃棄物になることもある。実際のところ、「フィリピン」には「ジャンク・サープラス (Japan Surplus)」と呼ばれる、家電以外も含む日本の中古品を取り扱う業態が存在する。Surplusとは、「余剰」を意味する英単語であり、Japan Surplusを日本語に訳すと「日本の余剰品」ということになる。

筆者が小学校に入った日本製のゲートなど、が陳列されていた。商品のほとんどが古いもので、どこか懐かしさを感じた。前に置いてあったのが、新しい。自分が留在りたてた商品はいつか戻ってきていたのか、みた。すると「これが、約3千キロ離れた日本から送りられてきたのです。あくまでも一つの

の前機会も懐かしい。販売店とほどの商いの事務は、その目標12の「つくる責任 つかう責任」とはモノを手放した瞬間に責任が消えるという意味ではない。手放すときに「どこへ行き、どの終わるのか」を一度考えてみる。たったそれだけでも、モノの廃棄方法や私たちの行動様式が変わる。そのよつた小さな想像力の積み重ねが「誰ひとり取り残さない」社会の事現に向けた一歩になるのではないだろか。